

Human Interface

Journal of Human Interface Society ヒューマンインタフェース学会誌

2020 **22-2**
(P.47-P.86)

■展望

ホップ・ステップ・ジャンプ

ヒューマンインタフェース学会 会長 藤田 欣也



ヒューマンインタフェース学会（以下、HI学会）として初めて遠隔参加を併用することになった3月6日開催の総会で、下田前会長から会長を引き継ぎました。新型コロナウイルスの流行という外的要因がきっかけとはいえ、お互いの顔を見て時には談笑しながら、何の問題も無く総会後の授賞式まで遠隔で執り行われたことには、隔世の感を禁じ得ませんでした。

昨年のHI2019での学会設立20周年企画は会員の皆様のご記憶に新しいところだと思いますが、1999年1月の学会設立から数えて、はや22年目に入りました。10年前の学会誌を見てみると、当時の土井会長が「前例の踏襲から改革へ」と題して巻頭言を書かれています。その後、歴代会長のもと、論文誌は完全オンラインのオープンアクセス化が進み、学会誌は商業誌に見劣りしないフルカラー版に衣替えしました。学会HPも刷新作業が着々と進められています。関係者の皆様に心から敬意を表します。

HI学会のこれまでの20年を振り返ってみると、最初の10年ではインターネットの普及でインタフェースへの要求が多様化する最中に学会組織を立ち上げ、次の10年ではスマートフォンが生活必需品になった情報化社会と歩調を合わせるように改革を進め、そうして今、IoTやAIが社会に浸透して機械と人の知能がダイナミックに融合する次の10年を迎えようとしています。そう、HI学会は、まさに今、立ち上げのホップ、改革のステップの次、飛躍のジャンプを迎えようとしています。

さて、そうすると、人と機械の接点を専門とする研究者や技術者のコミュニティとしてのHI学会にとってのジャンプは何でしょうか。答えはわかりませんが、ひょっとしたら、従来のHI学会ではメインストリームで扱ってこなかった産業や学術領域との連携なのかもしれません。人と機械／情報の接点を改善することによってプラスの効果を得られる領域は、本来、とても大きな広がりを持っているはずで。

また、アカデミックコミュニティである以上、学術的な知見を磨き上げる議論の場や、得られた知見をアーカイブする場としての機能は欠かせないでしょう。そうすると、シンポジウムや研究会のあり方も、大胆に見直す時期にきたということかもしれません。シンポジウムは、HI2019でのアンケート結果を反映して、今年から発表形態を議論中心にシフトしていく予定です。HI学会らしさの源泉である研究会も、専門研究委員会（SIG）を中心とする運営体制になってから10年を超えました。既にステップアップキャンプのようにSIG横断的な新しい取り組みが始まっていますが、より一層の活性化策を考えたいところです。論文誌の完全オンライン化・オープンアクセス化の次は、投稿数増による活性化ですが、一方でアカデミズムのグローバル化はあらがえない流れです。そのような中、HI学会の立ち位置をどこに持っていか、英文論文誌の可能性など含め、これから会員の皆様のご意見を広く募りながら一緒に考えたいと思います。

景気の良い話の一方で、これからの研究者人口の減少に対応可能な学会の運営体制も構築していく必要があります。そのためには、各種情報システムの大胆な活用も積極的に検討すべきと考えています。

30周年を迎えた時さらに元気なHI学会になっていられるように、会員・事務局の皆様と一緒に活動を盛り上げていきたいと考えています。皆様のご支援とご鞭撻をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

02 特集「観光エクスペリエンス」

Special Issue on : Sightseer Experience

特集よせて

立命館大学 北村 尊義

Introduction

観光エクスペリエンスへの挑み

立命館大学 北村 尊義

Challenge to the Sightseer Experience

未完了感を用いた観光地への再訪問を促す仕掛け

立命館大学 泉 朋子

Creating a Sense of Imperfectness for Encouraging to Visit a Sightseeing Area Again

街歩き中の発見を支援するモバイルアプリケーション

山梨大学 木下 雄一朗

Mobile Applications for Prompting Discovery in a Strolling Trip

The Role of Social Interaction and Authenticity in the Co-creation and Co-diminishment of Tourism Experiences

Otaru University of Commerce PRAET Carolus HAN Xing

20 この研究に倫理審査は要りますか？ Case1

理化学研究所 福住 伸一 東京都市大学 西山 敏樹 産業技術総合研究所 梶谷 勇 立命館大学 北村 尊義

Does my study need ethical approval?

22 ちょっと一息「BADUI 診療所」

明治大学 中村 聡史

BADUI Clinic

24 HISTreet Journal

HISTreet Journal

26 主催イベント報告

Event Reports

27 国際会議参加報告

International Conference Reports

28 会報

Bulletin

30 理事会・委員会便り

論文誌編集委員会 委員長 石井 裕剛

Letter from Committee

31 ワタシの論文読みどころ

Papers Highlights in the Transaction

33 論文誌 Vol.22 No.2のお知らせ

Information about the Transactions of Human Interface Society, Vol.22-No.2

38 入会案内、他

Membership Application, Others

